

基本方針

ツール・ド・さくらんぼ実施組織
直前理事長 安孫子文剛

これまで多くの地域の方々に支えられ、多くの参加者を魅了してきたツール・ド・さくらんぼは本年で6回目を迎えることとなります。ここでしか味わえない、ここでしか体感できない寒河江西村山の魅力は、当事者である地域行政や住民が連携して発信する必要があります。地域の潜在する力を引き出し、地域住民に対して地域への誇りや郷土愛を醸成させ、全国各地の人々に発信できる機会を活かし、地域発展に結びつける必要があります。

いつの時代も、人々はまちの明るい未来に期待を寄せ、暮らしや仕事、人と人の繋がりに発展を求めてきました。山形県内においても地域の魅力を発信できる自転車を使ったイベントが数多く開催され、これからのツール・ド・さくらんぼが独自性や優位性を求めていくうえでも、先を見据えた戦略的な方向性を描く必要があります。まずは、私たちが主体性を持って実行委員会を先導することで、多様な関係性から明確なコンセプトに基づく連携を生み出し、地域を巻き込み一体となって魅力的な寒河江西村山を発信させる合意形成体をつくります。また、これまで蓄積されてきた経験や情報を共有することから、継続的な改善のサイクルを確立させ、提供するサービスの維持、向上、評価できる仕組みや体制を構築し、地域発展に繋がるまちづくりの仕組みを確立します。そして、地域住民が地域に対する愛着と誇りを持ち、主体的に参画できる意識を醸成させ、豊かな自然と先人たちが繋いできた文化や歴史に係る地域特有の資源を、より印象の強い魅力として多くの方に発信することで観光客誘致や交流人口を拡大させ、地域を活性化させる原動力とします。

ツール・ド・さくらんぼを通じたまちづくりが、地域資源を有効に活用した持続的な発展に繋がり、地域振興である経済を活性化させ、地域住民が当事者意識を持って課題に取り組み、高い意識を共有することで、誰もが夢を描ける明るい寒河江西村山を創造します。